

## 2008年9月

グヌングデ・パングランゴ国立公園周辺で森林再生プロジェクトを実施するため、様々な準備や調整を行いました。特に重要な活動は、今後森林再生を実施する地域の選定です。コンサベーション・インターナショナル・インドネシアは、地元の関係者と会議や意見交換会を開催し、事業候補地域の地図上での分析、土地利用状況の分析、パートナーとなるコミュニティの確認などを行いました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### 対象地域の選定

森林再生プロジェクトの実施地を決定するため、数回のフィールド訪問調査と協議を行いました。その結果、国立公園の西部に位置するスカブミ県ナグラク郡の3つのエリアを、森林再生プロジェクトの実施地域に選びました。(合計約 200 ヘクタール)

国立公園の西部は、コンサベーション・インターナショナルによる現在までの生物多様性や水文調査の結果からも、特に生物多様性が高く、周辺地域への水の供給源として重要な地域であることが分かっています。

この地域は、大変植生に乏しい地域です。劣化した土地のほとんどが背丈の高い草や低木で覆われており、コミュニティがキャッサバなどの短期栽培作物の育成に利用するため、木を残さず完全に開拓されている場所も見られます。

さらに、養樹園の設置場所と植樹祭の開催地を決定しました。養樹園には、水のアクセスが可能な場所を選びました。今後、11月の植樹祭と植樹祭での植林の実施に向け、準備作業を進めていきます。



植樹祭開催地

(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



養樹園設置予定地

(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### 土地利用状況の分析

事業対象地の近くには村があります。ナグラク周辺の事業対象地域は、国立公園の拡張地域なので、国立公園内の領域ですが、周辺に居住するコミュニティのほとんどは土地を所有しておらず、なかには、公園内を小規模な農業用地として利用する人も見られます。公園の拡張地域では、土地をキャッサバや野菜など、季節ごとの作物の栽培に利用する光景が多く見られます。



公園拡張地域内での農業活動

(c) Conservation International. Photo by Anton Ario

### コミュニティとのパートナーシップ

このプロジェクトでは、地元コミュニティとの協働が大変重要なポイントとなります。コミュニティの人々が、自らの農業用地を維持するように、再植林実施後も樹木を維持していく重要性を認識し、森林再生事業に参加してもらうことが重要です。



(c) Conservation International. Photo by Anton Ario

国立公園内で小規模な農業活動を行う地元コミュニティともパートナーとなり、今後「農家組織」を形成するように支援していきます。また、事業実施地周辺には、既存の農家組織もあるので、パートナー候補として、今後のプロジェクトへの参加に向け、より詳しい協議を実施する予定です。

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。